

I 重点目標

- 1 かわすあいさつ、わかち合う心〈徳育〉
- 挨拶を交わすなか、人間尊重の精神を培う。
 - 諸活動を通し、豊かな情操、奉仕・協働の精神を培う。
 - 生徒指導、安全指導の充実と規範意識の醸成に努める。
 - いじめ・不登校等への温もりある対応に徹する。

- 2 かんがえ、表現する力〈知育〉
- バランスのよい習得と活用による授業で確かな学力の定着を図る。
 - 基礎的・基本的内容の定着を図る。
 - 学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力を養う。
 - 学習習慣の確立と家庭学習の充実に努める。

- 3 みんなで踏ん張る底力〈体力、徳育〉
- 家庭や地域社会と連携し、基本的な生活習慣の定着に努める。
 - 体験活動を通して継続して取り組む態度を養う。
 - 健康の保持と体力・運動能力の向上を図る。
 - 進んで健康づくりに取り組む態度を養う。

II 重点目標に対する学校評価（数値は4段階評価の平均値 各評価項目に対する教職員・児童・保護者の評価の順で表記 ◎は学校関係者評価委員の評価 ○は考察及び改善方策）

○挨拶運動	(2.9 3.4 3.2)
仲間・集団づくり	(3.1 3.6 3.5)
○青少年赤十字活動	(3.2 3.2 3.1)
生徒指導体制の整備	(3.8 3.4 3.5)
○登下校の安全確保	(3.7 3.8 3.6)
防災教育の充実	(3.3 3.9 3.5)
施設・設備の安全管理	(3.5 3.7 3.6)
校内環境の整備	(3.4 3.4 3.4)
○いじめ・不登校等への対応	(3.7 3.7 3.3)

言語活動の充実	(2.9 3.4 -)
特別支援教育の充実	(3.2 3.6 3.2)
情報機器の適切な利用	(3.2 3.5 3.4)
○基礎・基本の定着	(3.4 3.5 3.4)
○思考力の育成	(3.1 3.4 -)
○家庭学習の充実	(3.3 3.2 3.0)

○基本的生活習慣の定着	(3.2 3.4 3.2)
○開かれた学校づくり	(3.1 3.5 3.3)
P T A活動への協力	(3.0 - 3.4)
情報の共有化	(3.2 - 3.5)
道徳教育の充実	(3.1 3.6 3.4)
○体力づくり	(3.1 3.6 3.5)
○健康づくり	(3.3 3.5 3.4)
○食育教育の充実	(3.0 3.3 3.0)

◎先生方が見守りを朝早くからしてくださっているのを見かけ、有難いと思う。

◎この項目の数値が高いのが、本当にいつも感心させられる。地域の方がとても協力的で、児童も安心して学校生活を送ることができていると思う。

◎登下校時の挨拶はすばらしい。

○よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート（Q-U、ハイパーQ U）の結果の分析について話し合ったり、外部講師を招いて研修を深めたりする時間を設け、学級経営に生かすよう努めている。

○高学年の児童が中心となって、毎朝のボランティア清掃や挨拶運動に熱心に取り組み、その輪が下学年児童にも広がっている。頑張っている児童を全校に紹介しながら、頑張りを認め合えるような場づくりを工夫した。

○教職員による毎日の登下校指導や青色防犯パトロールに加え、今年度は見守りベストを購入・配付して、新たな見守りの協力者が増えている。今後も、学校・家庭・地域が連携しながら、登下校時の安全確保を図っていく。

◎「家庭学習がんばりカード」や授業改善、一人一人に応じた指導等、学校でできることを取り組んでもらっていることに感謝している。

◎学校で児童同士が考えを話し合い、表現することができている。

◎言語活動の充実も個人差があると思うので、充実させるのは難しいと思うが、個人個人の能力や性格に沿って支援し、充実させてもらったらと思う。

○「家庭学習ノート」の励行を学校全体で進め、その内容に合わせた家庭学習を提示したり、各学級において上手にまとめているノートを紹介したりするなどして、学習内容の定着を図った。

○授業に「学び合いタイム」（小集団学習）を意図的、計画的に位置付けている。今後も場を工夫しながら対話的な学習を取り入れたり、児童主体の考える授業となるよう授業展開を工夫したりして、授業改善に努める。

○今後も、児童が互いのよさや違いを認め合い、「分かる」「できる」喜びをより一層味わうことができるよう、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりや支援に努める。

◎ホームページにおいて、タイムリーに学校の様子を知ることができている。

◎道徳教育、特別活動、体験的活動などが充実している様子がうかがえる。子どもは、体験活動を好む傾向が見られる。

◎運動する機会が減っているのではと心配していたが、2回目の評価を見て工夫して行ってくれていることが分かり、安心した。

○人権・同和教育に視点を当てた参観日を実施したり、性教育に関する授業を行ったりし、心や体、命について考える時間を設定している。今後も、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を継続し、豊かな心の育成に努める。

○例年どおり異年齢集団等での活動を行うことはできなかったが、1学期末には、「クラスマッチウィーク」を設け、各学年の実態やねらいに応じ、スポーツだけでなく読書マラソンにチャレンジしたり、団体戦だけでなく個人結果の加点方式を取り入れたりした。

○学校運営協議会委員に加え、協働活動サポーターとして保護者や地域の方々43名が登録しており、様々な活動において協力が得られている。